

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

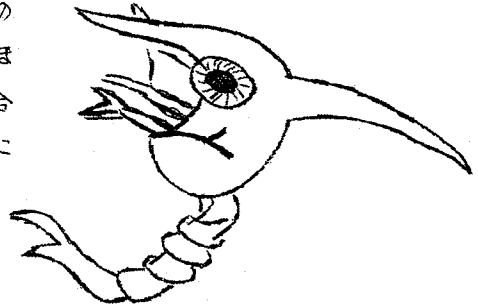
誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	8 / 1962 / 14-15
タイトル	鳶七沼におけるプランクトンの日周活動
著者名	中川勅使男

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

鳶七沼におけるプランクトンの日周活動

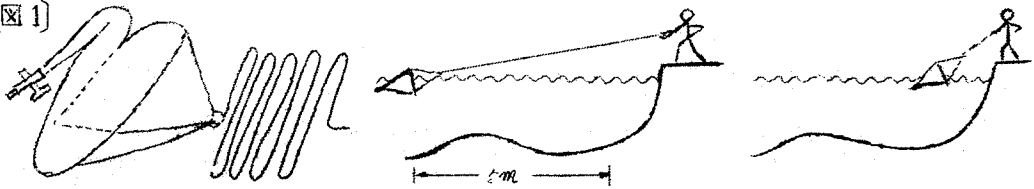
2年 中川 勲 侯 男

私が昨年「鳶沼におけるプランクトン類の日周活動」の調査員となり、プランクトンというものに何か興味をおぼえる様になり、鳶七沼のプランクトンの種類及びその割合などを調べたいと思ったのであるが、先輩に聞くと、「前にも調査したことがある」ということを聞いたのであるが、その資料がのこっていなかったので、自分の手で調べたかったし、また、赤沼のプランクトンについては先輩も未だ手をつけていないのでどうしても調べる気になったのである。



オ2日目の午前中に調査員3名で(月沼)(鏡沼)(重沼)(長沼)(ひょうたん沼)のプランクトンを採集した。ここではボートがないし、また、浅いので、ネットをたたんでひもを6mにしてネットを投げ、そして1m手前まで引っぱり、そうすると5mの距離を引っぱったことになる。ところでネットがからんだりしてなかなかうまくゆかなかった。試験管に採集し後で調べてみると、ほとんどがノウミジンコで、長沼で単位体積での個数が一番多かった。また、ひょうたん沼ではまったく採集されなかった。これは近くの家から下水が流れこんでいるのであろう。

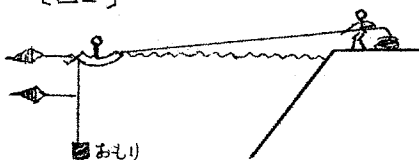
〔図1〕



オ2日目の午後 赤沼へ調査に出かけた。キャンプ地から1時間半で、途中標識があり迷うことはなかった。岸の水温は21℃で鳶沼と似ている。泳いで見ると、鳶沼では水面から1m下ると5℃ぐらい下って非常に泳ぎにくいのであるが、ここではそんなに水温の差がないのでしょう。ここではネットのひもを口にくわえて泳ぎ、採集した。試験管からみると真赤なプランクトンが2種類あるように思われた。

オ3日目の午前、先輩とシマジクモ調査員の他の人達とともに赤沼へ出かけた。昨日の方法とその他に岸でひもを持ってもらい、ネットを持って沼の中頃迄泳いで引っぱり、岸からひもを引っぱってもらって採集した。水面1mの所を採集する時、図2の様に行なったが、さむさのため水面2.4・6mの深さの採集はできなかった。それに予備のプランクトンネットがなかったので、ネットが

〔図2〕



破損したが、そのまま使ったので、正確な価を出すことができなかった。

赤沼のプランクトンを、学校へ来てから種類を調べてみた。2種類あると思われたが実は1種類で、橈脚類のノ-

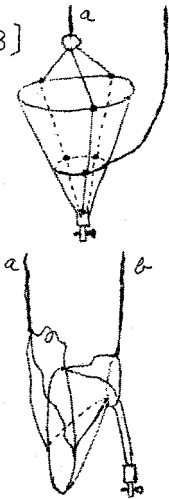
ゾラリウス6期あたり、とコペポード期6期あたりの幼体なのではっきりと種類をきめることができなかつた。種類をはっきりきめるには養なわなければならない。

これから自分がやれなかつた赤沼のプランクトンを調べる良き先輩がでることも確信して、参考として調査方法を簡単にのべてみよう。

赤沼付近にはテントを張る広さは十分あるが、飲み水は赤沼の入口の反対側にあり、そこにテントを張るなら適していると思われる。

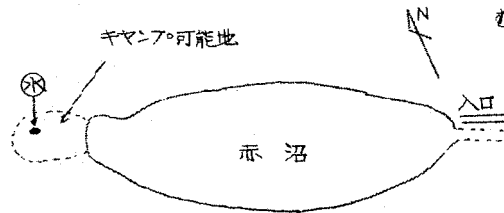
オーにまず調査の地点をきめ、浮きにおもりをつけて、あらかじめそこにおいておく。ここでは木のボートは無いから藁沼でのプランクトン採集方法はむずかしいので、ゴムボートか又はそれに類するものを持って行って、垂直に深度にわけて採集することをすすめます。例えば、2m間隔にわけて水面から2m近のところを採集するときはネットを垂直にたらし、2mさげ、それから上に引っかるとよい。さて2~4mにいるプランクトン採集は簡単にはゆかない。〔図3〕のようにして4m近下

〔図3〕



げ、aのひもを2m上げてやめ、そのあとでbのひもを引っかいて水面近く上げると水面から2mのプランクトンが入らない。同様に4~6m、その他も同様に行うとよい。この垂直採取方法は、今年の某高校の研究発表会で聞いてきたのである。

余談ではあるが3日目の午後赤沼で諸先輩と沼を縦断した時であるが、水の色が本当にきれい、水中をみると、なかなか形容し難いのであるが



むりに言葉で表わすとすれば、非常に明るい青色とでも言うのであろう。後でわかつたのであるが透明度は16mだそうです。